

伊方町3つのChange推進にあたって ～「未来の教室」実現に向けた考え方～

予測不能な時代をたくましく生き抜く子どもたちを育てるために

伊方町の一人1台端末を利用したICT教育の取組についてのリーフレットを送付するにあたり、現在の取組の具体的な事例及びこれからの学校の在り方に関する考え方を簡単に紹介いたします。

Change 1

ボード！マーカー！タブレット！

～教職員の意識チェンジ～

★新しい時代の教師力⇒「教師が変われば、授業が変わる」

まずは、教師（学校）が変わる。これが、子どもの学びを変えるための第一歩！

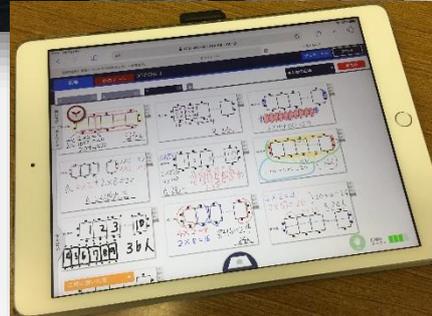
- 1 ICT支援サポーターを活用した教員研修
- 2 学習支援アプリの導入と活用
- 3 タブレットを自由に使える環境整備

合言葉

「とにかく使ってみる」

<教職員の感想>

- 一人1台あるため、個人の観察記録(写真)や調べたデータを保存・累積できる。
- コンピュータ室を利用しなくてもよいため、効率的に学習が進められる。
- 操作に慣れるまでに時間がかかったが、今はタブレットがあるのが当たり前を感じる。
- リモートや他校との通信など、工夫次第で自分の授業の幅を広げられそうである。
- 小学校で身に付いたICTスキルが中学校での学びにつながっている。(スキルの積み上げ)



Change 2

えんぴつ！ノート！タブレット！

～子どもの学び方チェンジ～

★子どもの学びの質の向上⇒「授業が変われば、子どもの学びが変わる」

教師（授業）が変わる。学校（学びの環境）が変わる。自ずと子どもの学び方が進化する！

いつでも、どこでも、だれとでも学べる「強み」



- 1 タブレットは、もはや文房具！（当たり前の学習ツール）
- 2 一人一人のペースに応じた学びの支援
- 3 表現方法、伝え方の変化
- 4 他校（同校種、異校種）とのつながり、協働的な学び

【実践事例】

○ 理科での取組（中学校）

- ・ 画面共有をすることで、実験をしたり、演示を見せたりする際の三密回避に役立っている。同時に録画をすることで、まとめの際の思考に役立てる場面もある。
- ・ iPad のカメラレンズに 3mm のガラス球を置くことで、簡易顕微鏡にすることができる。植物細胞の観察など、低倍率に向けたプレパラートを観察した。
- ・ 一人1台の端末があるため、順番待ちなどの時間のロスがなく、一人一人が学習の主体になることができる。



○ 算数科における他校とのリモート授業（小学校）



- ・ 「円の面積」の求め方では、他校の児童と考え方を交流し、より多くの考え方に触れることができた。
また、画面を通じて、より分かりやすく伝えるための手立てを考えることができた。
- ・ 直接会わなくても、一緒に学習を楽しむことができた。学校間を移動する時間のロスがなくなった。

○ 社会科における1分間プレゼン（中学校）

- ・ 社会科の歴史分野の学習において、自分で調べた内容を友達に分かりやすく伝える活動を行っている。
- ・ インプットだけでなく、アウトプットしていくことで、学習内容の定着と理解の深まりが期待できる。



<児童・生徒の感想>

- タブレットを使うようになり、学習アプリを利用し、自分のペースで復習等ができるようになったことが良かった。
- 一人1台のタブレットがあり、手軽に持ち運べるので、友達と情報交換したり、タブレットで示しながら伝えたりする活動ができるので、学習が楽しくなる。

Change3

つながる・広がる・安心感！

～保護者の意識チェンジ～

★保護者の理解と信頼⇒「子どもと学校が変われば、保護者も変わる」

子どもの学びのスタイルや環境の変化を、保護者の安心・信頼へとつなげる。



- 1 緊急連絡網を含む情報共有手段をICTで
- 2 PTA行事で google フォーム等を使ったアンケートの実施
- 3 公共施設等のネット環境整備等

<保護者の期待>

- オンライン学習で、伊方町では出会えない人たちとよい意味で出会い、つながり、学び合ってほしい。
- 一人1台使えることで、自分の興味のあることをどんどん調べ、学んでいってくれることを期待している。